任意の予防ワクチンに市の助成を

前田芙美子議員

質問

任意の予防ワクチンの接種について、市の助成をお願いしたい。

女性特有のがん、子宮頸がんは原因やがんになる過程が解明されているので、予防ができるがんである。若年者の発症率が高く、25～39歳の発症が増加している。年間約8千人が発症し、約2千400人が死亡している。

次に高齢者に対する肺炎球菌による感染は、死亡率が高く重い肺炎をおこすこともある。1回の接種で免疫効果は約5年持続するが、自費で8千円程かかる。

また、小さい子どものおたふく風邪や水ぼうそうは、命にかかわるほどではないが、完治までに一週間ほどかかる。保育園や学校を休まねばならないので、両親が共働きであればどちらかが仕事を休まねばならない。ワクチンを接種すればかかっても軽くすむし、あとに残るようなこともない。

さらにヒブワクチンは、ヒブによる重症感染症を確実に防ぐことができる。ヒブによる髄膜炎は3歳未満に多く発症するので、早く接種したいワクチンである。

1回が1万円から1万5千円ほどで、4回の接種をするとかなりの高額になり、お金のある人だけのワクチンになってしまう。

子ども達を守るためには、定期接種にして誰でも受けることができるようにしないといけない。

以上の任意の予防ワクチンは各市町村において、公的助成を始めている所があるが、病気になった時の本人・家族の心身の負担を軽くするためにも、助成をしてほしいが。

市民生活部長

愛西市議会の意見書と、東海市長会から本年5月20日に国へ公費負担で制度化をしてほしいと、要望をしたばかりなので、現段階としては愛西市独自の助成は考えていない。

おたふく風邪や水ぼうそうのワクチンは、財政豊かな名古屋市と飛鳥村が助成しているが、市として独自の助成をしていく考えは持っていない。

質問

子宮頸がんワクチンは、中学校へ入学した女の子に1回目のワクチンをプレゼントしてはどうか。健やかに成長して次世代の子ども達を安心して産み、育てる女性になってもらいたいと思う。

病気になった時の治療代や薬代を健康保険から支払う額よりも、ワクチン助成分の方がはるかに安い。ワクチンの助成は人の命がかかっている。

予防接種後進国の日本でもヒブワクチンが接種できるようになった。自己負担では高額なワクチンであるが、どの子達にも公平に接種し、万一の副作用に対し国が補償する意味から、定期接種が必要だ。

市長

全国市長会でも国へ要望している。推移を見て判断していきたい。